

はじめに

平成28年4月に発生した熊本地震では、全国から多くのボランティアの方や各自治体、警察、自衛隊及び消防署等多くの方々の支援活動により、少しずつではありますが、着実に復旧しております。今後は復興に向けた取組みを行っていかねばなりません。

また、全国の皆様からいただいた御支援に対する感謝の気持ちを忘れることなく一日も早い復興を目指していきます。

熊本県では、この未曾有の大災害に対し、「被災された方々の痛みを最小化する」、「単に元の姿に戻すだけでなく、創造的な復旧を目指す」、「復旧・復興を熊本の更なる発展につながる」という「復旧・復興の3原則」を掲げ、県民の皆さんと共に、全力で取り組んできました。

これからも熊本地震の復旧・復興に向けた道のりは、続きます。一日も早い復興を目指し、「災害に強く、誇れる資産を次代につなぎ、夢にあふれる新たな熊本の創造」に取り組んでまいります。

当研究所における主な調査研究は、保健分野では、本那において初めて県内の野生猪（肝臓）から人にも感染し敗血症を引き起こすことが知られている、*Salmonella Choleraesuis biotype Kunzendorf* を初めて分離した調査研究と、近年、自然毒に起因する健康危機事案が増加傾向にあることから、迅速な原因究明等の対応が不可欠な迅速一斉分析法の検査体制の構築を目指しています。

環境分野における調査研究では、前年発生した熊本地震及び豪雨による影響で水生生物における指標生物への影響など定住性の高い生物での被害の調査を行いました。

また、県内河川における重金属成分等分布の把握ができたことから、今後はより詳細な現状を把握することで環境への影響評価につなげていきたいと思っております。

大気汚染では、PM2.5 主要発生源および越境・地域汚染の影響を把握するために、化学輸送モデル CMAQ を用いて 2014 年冬季の熊本県を対象とした発生源寄与を求め、PMF モデルによる発生源寄与と比較・検討したところです。

この所報は、平成28年度の研究成果を取りまとめたもので、職員が通常業務としての試験検査を行っている中から、課題を捉え、研究テーマとして発展させて取り組んだものです。御高覧いただき忌憚のないご意見をお寄せいただければ幸いです。

平成29年11月

熊本県保健環境科学研究所長 市田 弘美